

次世代を取り込み、 板金業界の未来を 切り拓く

自社の“当たり前”を強みに変え、
新卒採用につなげる

静岡県シートメタル工業会 会長

吉澤 貴之 氏

(東和 株式会社 代表取締役)



静岡県は2000～2025年の累計工場立地件数は全国1位、製造業の競争力を示す製造品出荷額も全国トップクラスを誇るなど製造業がさかんな地域だ。

そんな「ものづくり県」に拠点を置く静岡県シートメタル工業会は来年で40周年をむかえる。会員企業数は72社と、全国のシートメタル工業会の中でも比較的規模が大きい。それに対して工業会の活動に参加する企業が限られるという課題も抱えている。

今年4月に6代目会長に就任した吉澤貴之氏は、より多く

の会員が参加し、ともに成長できる工業会を目指している。そのために、次世代を担う青年部（ネクステージ）との連携や生成AIなど新たな技術への対応、板金加工業の社会的な認知度向上などにも取り組む考えだ。

そこで吉澤会長に、静岡県シートメタル工業会の今後の運営方針や板金業界への思いを聞くとともに、東和(株)の社長として取り組んでいる若手を中心とした人材採用や職場環境づくり、主力のチップマウンター関連事業を中心とした足もとの業況について話を聞いた。

■多くの企業に参加してもらえる工業会を目指す

—4月に開催された静岡県シートメタル工業会の総会で、新会長に就任されました。就任の経緯と会長としての抱負などがありましたら教えてください。

吉澤貴之会長（以下、姓のみ） 静岡県シートメタル工業会は来年で設立40周年をむかえます。このタイミングで6代目会長に就任することに驚きと戸惑いもありましたが、就任した以上は責任を持って取り組みたい。指名された理由は年

齢的なことに加え、会計担当役員時に「より多くの会員に参加してもらえる会にしていかなければならない」と先輩役員に生意気なことを言ってしまったからかもしれません。

その考えは今も変わっていません。当工業会では経営セミナーや加工技術セミナー、人材育成研修、工場見学会、技能検定試験などを行っています。会員企業は72社と全国でも比較的規模が大きいですが、実際に行事に参加しているのは半分以上で1/3、1/4と少ない。どのような企画なら参

加してもらえるか、役員で知恵を出し合っていますが、なかなか成果が出ませんでした。

参加者増加につながる具体的な企画は模索中ですが、まずは伝え方を変えていきたい。これまでは開催概要を伝えるだけでしたが、今後は例えば視察研修なら、なぜその場所を選んだのかなど、参加するメリットも併せて伝えていく。さいわい参加者の満足度は高いので、まずは興味を持ってもらうことから始めたい。工業会のイベントにより多くの会員の方に参加してもらい、会員企業とともに成長・発展していきたいと考えています。

■青年部と一体となり活動していくことも必要

——まだ先の話になりますが、今後の工業会運営を担う次期会長の選定も会長や役員の重要な仕事となってきます。

吉澤 会長として工業会の運営と並行して、次期会長の選任も見据えなければなりません。現在の副会長たちは私と同じ60代前半なので、2年後あるいは4年後の役員改選時には40～50代の意欲ある人を副会長にむかえ、将来は会長を担ってもらいたい。

当工業会には青年部「ネクステージ」がありますが、その活動は工業会から独立して行われています。ただ、青年部にも工業会の行事に積極的に参加してくれる人たちは多い。4～6年後をめどに工業会の運営を次世代へ継承することを考えると、今後は青年部と工業会の垣根を低くし、一体となって活動することも必要だと思っています。

現在、当工業会で中心となって活動している経営者は60～70代で、その後継者の多くは40代後半から50代前半です。すでにその多くが青年部に参加しています。一方、工業会への参加が少ない企業では社長が50代、後継者が20代後半から30代前半というケースもあります。こうした企業にも積極的に参加してもらえれば、若手が増え、活性化につながると期待しています。

■生成AIへの関心の高さを実感

——製造DXの取り組みが活発化しています。とくに生成AIの注目度は高く、今後の重点施策として活用を計画する動きもあります。静岡の工業会ではどのようにお考えですか。

吉澤 昨年の定期総会で合同会社ヤオヨロズテック・仲村健太代表に生成AIに関する記念講演をお願いしたところ好評だったため、今年も2年連続で講演していただきました。聴講者の反応からも関心の高さを感じました。印象的だったのは仲村代表が「昨年お話ししたことはすべて忘れてください」「前回とは時代がまったくちがいます」と話されたことで、「十年ひと昔」どころでなく、「一年ひと昔」と言えるほ

会社情報

会社名	東和 株式会社
代表取締役	吉澤 貴之
所在地	静岡県浜松市中央区大久保町748-67（浜松技術工業団地内）
電話	053-485-4321
設立	1972年（1970年創業）
従業員数	54名（パート・派遣社員を含む）
主要事業	ロボット・OA機器・電子機器・医療機器・工作機械・制御盤などの精密板金部品の製造、二輪・四輪の板金試作部品の製作・プレス加工、アルミ・ステンレスの特殊溶接加工、レーザ切断とレーザ溶接
URL	http://www.towa.co.jp/



CORPORATE WEBSITE

主要設備

●ファイバーレーザ複合マシン：ACIES-2512T-AJ+RMP-2512NTK（MARS 連携）、LC-2512C1AJ+RMP-2512NTK（MARS 連携） ●パンチ・レーザ複合マシン ●レーザマシン：LC-1212αII+AMS-748ほか ●パンチングマシン：EM-3510ZRT+AS-2512NTK+ULS-2512NTK、EMZ-3510NTP+AS-48RM+ULS-48RM ●自動倉庫：MARS-2512N（10段10列） ●ベンディングロボットシステム：EG-6013AR+EGROBOT ●ベンディングマシン：HDS-8025NT × 3 台、FBDⅢ-8025NT、FBDⅢ-5012NT × 2 台、FMB-3613NT × 2 台など ●テーブルスポット溶接機：TSⅢs-NT、TSⅡ ●NCスタッド溶接機：GUNMANⅢ-NT ●YAGレーザ溶接機：YLR-1500Ⅱ × 2 台 ●窒素ガス発生装置：PSA 10002HT、PSA10002H ●自動金型研削機：TOGUⅢ、ID-TOGU ●NCタッピングマシン：CTS-900NT ●コンターマシン：V-400 × 2 台 ●コーナーシャー：CSW-250、CSW-220、CSH-220 ●2次元CAD/CAM：AP100、AP60 ●板金エンジニアリングシステム：VPSS 3i ●曲げ加工用CAM：VPSS 3i BEND



静岡県浜松市にある東和㈱の本社工場



①複合マシンLC-2512C1AJ（手前）とACIES-2512T-AJ（奥）が自動倉庫と連携し、夜間も自動運転を行う／②ベンディングマシンが並ぶ曲げ工程／③ベンディングロボットEG-6013AR。職人の技術を大切にしながら、自動化による効率化もはかる

ど進化が速いのだと驚きました。

私も総会へ向かう新幹線の中で、新会長就任のあいさつ文を生成AIに作成してもらいました。「静岡県シートメタル工業会」「総会」「新会長あいさつ」とキーワードを入力すれば、それらしい文章はつくれます。しかし、そのままではほかの方のあいさつと似てしまう。そのためさわりだけを使い、あとは自身の言葉でまとめました。そのことを仲村代表に話したところ、「キーワード入力だけで満足してはいけない。自分ならではの情報や思い——今回の場合は新会長としての思いや工業会、会員企業に対する考えなどを加えて初めてその人らしい原稿になる」とアドバイスを受けました。

最近では生成AIをうまく活用するためIT人材を雇用・育成する企業もありますが、私としてはことさら勉強をしなくても、生成AIについては今後さらに進化が進み、特別な知識や専門人材がなくても誰もが使えるようになって考えています。一方、技術の進歩が速いため、常に新しい情報を採り入れる姿勢は欠かせません。今後も会員企業の要望を踏まえ、講演会を開催していきたい。

■板金加工市場を将来性のある産業へ

——板金加工市場をさらに盛り上げていくために、吉澤会長は何かが必要だと思われますか。

吉澤 板金加工市場をさらに広げていくためには、板金加工の特性や重要性を知ってもらう必要があります。塑性加工には「金属プレス加工」と「板金加工」がありますが、補助金申請や各種統計で業種を選択しようとしても「板金加工」は小分類にさえありません。たしかにどちらもプレス機械を用いる塑性加工ですが、加工方法も役割も大きく異なります。それにもかかわらず、一括りに「金属プレス加工」として扱われているのが現状です。

「板金加工業」を独立した業種として認めてもらえれば、業界の認知度や社会的な評価も高まります。若い人たちにも将来性のある産業として関心を持ってもらえます。業界を活性化させ、国や行政へ働きかける必要があります。

■自社を見つめ直した新卒採用をスタート

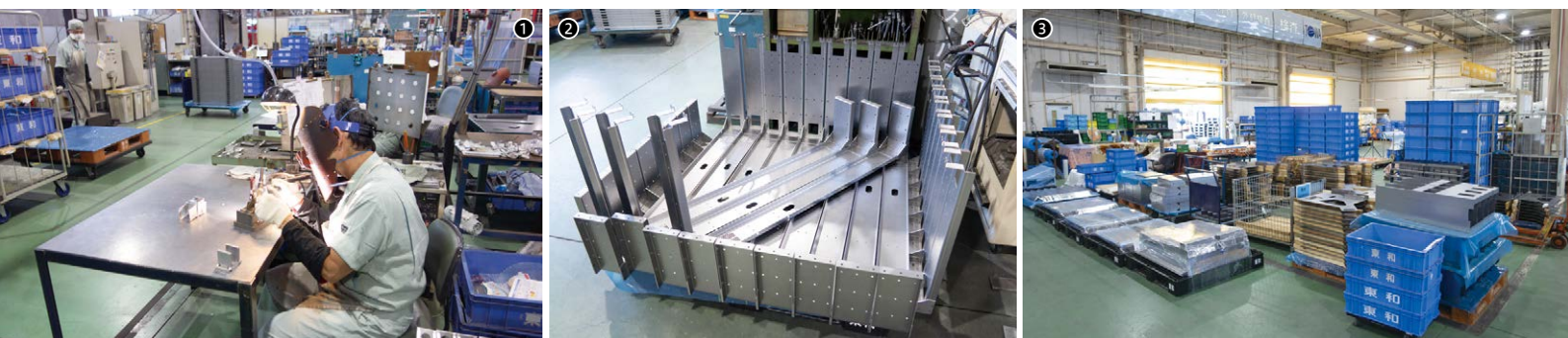
——人手不足に悩む企業も増えています。外国人やシニア、女性を採用して解消する動きもありますが、いかがですか。

吉澤 当社にはパート・派遣社員を含め54名の従業員がいますが、外国籍を持つ人材は一人もいません。単純に乗り遅れました。ただ、最近は外国人にも日本人と同様の雇用条件が求められ、人件費面でのメリットは薄れています。一方、近隣の大手メーカーによる高卒者の積極採用や労働人口減少で、日本人の採用も難しくなっています。当社のような中小製造業にとって、人材確保は大きな課題です。

それでも、ものづくりが好きな人は一定数います。重要なのは、そうした人材との接点をどうつくるかです。リクルート企業に勤めていた妻にも協力してもらい、4年ほど前から新卒採用を始めました。昨年は大卒2名、今年は専門学校卒2名を採用し、来年も大卒1名の入社が内定しています。

採用活動では、まず自社を見つめ直しました。そこで気づいたのが、社員には意外に文系出身者が多いことです。ものづくりに興味を持ちながら、「文系では製造業に応募できない」と考えてしまう人も多くいます。そこで募集条件に「文系・理系問わず」と明記し、間口を広げました。

また、当社の仕事はメーカーから図面をもらい部品を製作するため、「金属のプラモデル」をつくる作業に似ています。そのため「子どもの頃、プラモデルやものづくりが好きだったか」といった点も伝えています。入社した4人は全員文系で、子どもの頃にプラモデルをつくっていたそうです。



①溶接工程にはアルミやステンレスの特殊溶接加工が可能な熟練した作業者が在籍。溶接ロボットも導入している／②加工済みのチップマウンターの部品／③加工を終え、出荷を待つ製品が並ぶ

もちろん待遇や職場環境も重要で、初任給を含めた条件を整えなければ候補にさえ残りません。当社では産休・育休を取得しやすく、復職後も出社・退社時間を柔軟に設定できる環境を整えています。現場では女性社員も活躍し、有給休暇の取得率も90%前後と高い。こうした働きやすさも強みとなっています。

■家族や恋人、友人に紹介できる会社に

——人材採用において、給与や仕事内容だけでなく、働く環境も重要なアピールポイントになると思います。御社ではこれまでどのような環境づくりに取り組んできましたか。

吉澤 中小製造業への就職を不安に感じる親御さんもいます。実際に昨年入社した社員の親御さんから「浜松で東和という会社を聞いたことがないが大丈夫なのか」「工場なら深夜勤務があって大変なのでは」「冬は寒く、夏は暑いのでは」と心配されたそうです。当社は浜松土産で有名な「うなぎパイ」の工場と同じ工業団地にあり、複合マシンやベンディングロボットなど夜間も自動運転可能な設備を導入しているため夜勤はありません。工場内には全体空調も備えています。

こうした環境を整えたのは先代です。浜松技術工業団地に工場を建設した1988年、当社はまだ従業員1ケタでした。先代が「家族や恋人、友人に紹介できる会社になければ」とそれまでの古い工場から、工業団地への進出・工場建設を決断。その後は事業の成長にともない工場を拡張し、2004年には全体空調も導入。こうした環境は採用活動の強みになっています。

昨年入社した社員から「夜勤がないことをもっとアピールした方が良い」と言われ、私自身、夜勤がないことを当たり前だと思っていたことに気づきました。採用に困っている企業も、もしかしたら自社の強みに気づいていないだけかもし

れません。中小企業だから人が来ないのではなく、身近すぎて自社の良さを見落としている。今いる社員が働き続けている理由を掘り下げれば、採用につながる強みはきっと見つかると思います。

■主力のチップマウンター業界は好調に推移

——主力のチップマウンター関係を中心にお仕事の方はいかがでしょうか。

吉澤 当社は二輪・四輪の板金試作部品の製作会社として設立し、現在は電子機器や医療機器、産業機械関係を中心に製造しています。中でも大きいのは、売上の半分以上を占めるチップマウンターです。

チップマウンター業界は2026年秋以降の回復が見込まれていましたが、想定より早く上向いています。半導体業界の立ち上がりが予想以上に早く、それに引っ張られるかたちでチップマウンター業界の需要も好調に推移しています。半導体検査装置メーカーからの受注も今年に入って急増しました。ただ、今回の受注増が単なる先食いののか、市場回復が前倒しになったものなのかは、まだ見極める必要があります。好不況を繰り返してきただけに、今回の好調がどこまで続くのか慎重に見ています。

先日参加した勉強会で、チップマウンター市場は年間3,000億～4,500億円規模で、中国向けが半分ちかくを占めるとの説明がありました。台湾やインドにも大手EMSメーカーがあり、競争は激化しています。これまで精密なメカニカル部分は中国企業が追随しにくい分野でしたが、周辺機器や検査装置、実装前のはんだ付け装置などでは現地メーカーが徐々に台頭しています。中国製チップマウンターがいつ日本製と遜色ない水準に達するかわかりません。業界動向を注視しつつ、新たな業種の獲得も検討していく必要があります。